

東邦大学における 学術論文/研究データの アーカイブ

展示期間:2026年2月2日(月)~3月31日(火)

オープンサイエンスは今や国際的に大きな潮流となっています。日本国内では「公的資金による学術論文等のオープンアクセスの実現に向けた基本的な考え方[1]」(2023年10月)にて、公的資金による研究成果を学術論文として発表する際の即時オープンアクセスの理念が示されました。ここでは研究成果の国民への還元や、自由な利活用による科学技術・イノベーションの創出、地球規模課題の解決への貢献、我が国の研究成果の発信力向上等に言及されています。

研究公正の観点からも、特に資金や環境を提供されて研究活動を行う研究者には、透明性の向上や研究成果に対する説明責任が求められています。たとえば日本学術会議は「科学研究における健全性の向上について[2]」(2015年3月)の中で、論文に紐づく研究データ等の研究資料は、原則10年間保存することを明記しています。



© 2018 Toho Univ. MC & SUNMEDIA

論文や研究データをはじめとする研究成果物を適切な方法でアーカイブ(=保存)・管理・公開することは、「オープンサイエンス」「研究公正」両方の観点で重要です。

東邦大学でも、学術論文や研究データといった研究成果物を広く公開することで学術研究の発展や地域・国際社会の持続的発展に貢献することを定めたポリシー[3]や、研究データを適切に記録・保存・開示することで適正な研究活動を推進することを定めたガイドライン[4]が策定されています。

本展示では、学術論文および研究データの適切なアーカイブや公開・管理のために東邦大学が実施している取り組みや、それらを実現するためのツールである「東邦大学学術リポジトリ(TRIP)」や「GakuNin RDM」についてご紹介します。

東邦大学学術リポジトリ
Toho University Academic Repository

 **GakuNin RDM**

- [1] 公的資金による学術論文等のオープンアクセスの実現に向けた基本的な考え方([リンク](#))
[2] 科学研究における健全性の向上について([リンク](#))
[3] 東邦大学オープンアクセスポリシー([リンク](#))
[4] 東邦大学における研究データの保存等に関するガイドライン([リンク](#))

[1]



[2]



[3]



[4]



1. 東邦大学のこれまで

東邦大学では、日本国内の動向や本学のポリシー・ガイドラインにしたがって、研究成果物(論文・研究データ)の公開や管理に取り組んでいます。







国内動向

- ・ 即時オープンアクセス(OA)義務化
2025年度から新たに公募する公的資金(一部)の受給者に対して、電子ジャーナルに掲載された「査読済み研究論文」「論文根拠データ」を、学術雑誌への掲載後、即時に機関リポジトリ等で公開することを義務化
- ・ 科学研究における健全性の向上について
研究成果発表のもととなった研究資料は、後日の利用・検証に耐えるよう、メタデータの整備にも留意して原則10年間保存

東邦大学

- ・ 東邦大学オープンアクセスポリシー
研究成果を「東邦大学学術リポジトリ」やオープンアクセス誌等で公開
- ・ 東邦大学研究データ管理ポリシー
研究活動を通じて収集・生成された情報(=研究データ)は適切に保存・管理し、利活用の促進に努める
- ・ 東邦大学における研究データの保存等に関するガイドライン
研究成果発表のもととなった研究データは最大10年間の保存が必要

研究成果物を適切に公開・管理するため、2025年には教員・学事統括部・メディアセンターからなる「オープンサイエンス推進プロジェクト」が研究統括機構下部の諮問機関として発足しました。研究成果物を本学リポジトリで公開するための体制整備のほか、「研究データ管理セミナー」を開催し、公的資金による研究成果物を段階的に公開するための対応ロードマップを示しました。

カテゴリ	成果物	2024年度	2025年度	2026年度
 非臨床研究	 研究データ	公開		
	 論文(著者最終稿)		公開	
 臨床研究	 研究データ			公開 <small>※即時OA対象の「公表を前提としたデータ」</small>
	 論文(著者最終稿)			公開







研究成果物の公開基盤として、本学では「東邦大学学術リポジトリ(TRIP)」を運用しています。2026年2月現在、TRIPでは論文122件・研究データ76件を公開しています。

2. 今後の予定

本学では、2026年度から「臨床研究」においても研究成果物の管理や公開が必要となります。

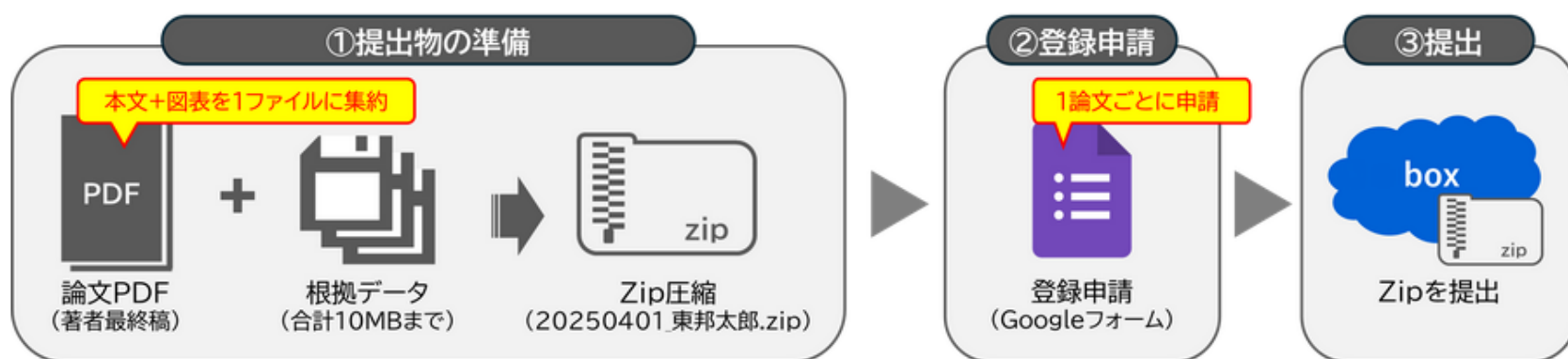
臨床研究: 出版された論文は原則公開します。根拠データはGakuNin RDM等で適切に管理・保存します。

非臨床研究: 出版された論文について、論文と根拠データを公開します。

カテゴリ	論文	根拠データ
 非臨床研究	【原則公開】 公開の方法は以下から選択  APCを支払い オープンアクセス論文とする	【原則公開】 公開の方法は以下から選択 <ul style="list-style-type: none"> 出版社ページでSupplementとして公開 <u>「東邦大学学術リポジトリ」に登録・公開</u> 外部リポジトリに登録・公開
 臨床研究	 <u>「東邦大学学術リポジトリ」に登録・公開する</u> (※著者最終稿)	【非公開】 適切な管理・保存が必要  <u>「GakuNin RDM」に登録</u>  「RedCap」に登録

※ 非臨床研究は2025年までと変更ありません

原則として、臨床研究、非臨床研究とも、それぞれの申し込みフォームから研究データや著者最終稿の登録申請をしていただく必要があります。手順は以下の通りです。



本学の体制や仕組みについては、【研究データセミナーⅢ】として説明会を行います。ぜひご参加ください。https://www.mnc.toho-u.ac.jp/mc/rdm/webinar/rdmseminar/rdmseminar_20260313.html

主催	研究統括機構
受講対象	本学教職員、大学院生(特別研究員) 公的研究費の申請に携わる研究者及び実績(実施状況)報告書の提出が必要な研究者
開催日時	令和8年3月13日(金)18:00 ~ ※ 1時間程度
開催方式	ZoomによるWeb形式



「東邦大学学術リポジトリ」は、本学の教育・研究の成果を収集・蓄積し、誰もがその成果を活用できるよう広く世界に公開するデータベースです。国立情報学研究所が運用支援を行うプラットフォーム「JAIRO Cloud」上で稼働しています。ここで公開した成果物は「Google」や「Google Scholar」のほか、国内の学術資源を集約している「CiNii Research」や、国内の機関リポジトリの横断検索サービス「IRDB」など、さまざまな方法で発見されやすくなり、引用や再利用の可能性が高まります。

「東邦大学学術リポジトリ」収載コンテンツ

【即時オープンアクセス義務化 関連】

- ・ 学術雑誌に掲載した論文(約120件)
- ・ 研究データ(約80件) **2025年度より受付開始**

【その他】

- ・ 博士論文, 修士論文(約1,400件)
- ・ 海藻データベース(1万件以上)
本学の故吉崎誠名誉教授が
全国で採集した海藻の押し葉標本画像
- ・ 額田文庫(約300件)
本学創立者の生家から寄贈された,
17~19世紀の和漢古医書のデジタル化資料

実際の画面

The screenshot displays the TRIP interface for a journal article. The article title is "Interleukin-11 signaling plays limited roles for liver fibrosis in a mouse model of metabolic dysfunction-associated steatohepatitis." The interface includes a search bar, a list of categories (e.g., Journal articles, Research data), and a detailed view of the selected article. The article details include the title, author (Interleukin-11 signaling plays limited roles for liver fibrosis in a mouse model of metabolic dysfunction-associated steatohepatitis), language (eng), and resource type (Journal article). The interface also shows the number of views (131) and a download button.

「学術雑誌に掲載した論文」は通常、読者が購読料を支払って購読するか、著者自身が高額なAPC(Article Processing Charge, 論文投稿料)を支払ってオープンアクセスにしないと閲覧ができません。東邦大学学術リポジトリでは、多くの出版社が条件付きで公開を認めている「著者最終稿」(→査読後の最終的な提出原稿, 詳細は **FAQ** をご覧ください)を登録・公開しています。エンバーゴ(公開禁止期間)等の制約はありますが、無料で論文をオープンアクセス化して、研究成果を広く発信することができます。



東邦大学メディアセンターでは、出版社が定める公開条件の調査も含めて、本学関係者による研究成果物のリポジトリ登録をいつでも受け付けています。お気軽にお問い合わせください。

2025年には東邦大学学術リポジトリにより親しみを持っていただくために愛称募集のアンケートを実施しました。学内の皆様からたくさんのご応募をいただき、『TRIP (Toho Research Information Platform)』を愛称として決定しました。

東邦大学学術リポジトリ (TRIP)



<https://toho.repo.nii.ac.jp/>

GakuNin RDMは、国立情報学研究所(NII)が提供している研究データ管理サービスです。研究データや関連資料を管理・共有することができます。本学では2023年に試験的に導入して利用方法を検討し、臨床研究用成果物(論文・研究データ)の保管場所として活用することとしています。



実際の画面(プロジェクトメイン画面)と機能

The screenshot shows the GakuNin RDM interface for a project named 'テストプロジェクト1'. The top navigation bar includes 'メンバー' (Members) and 'アドオン' (Add-ons). The main content area is divided into several sections:

- 1**: Member management section showing 'メンバー: Taro Toho, Hanako Toho'.
- 2**: Wiki section with '見出しパターン1' and a list of items.
- 3**: Citation section showing APA, MLA, and Chicago styles.
- 4**: Component section with 'コンポーネントを追加' and 'プロジェクトをリンク' buttons.
- 5**: Tag section with 'タグを追加してプロジェクトを発見しやすくする'.
- 6**: File management section showing a list of files and folders.
- 7**: Recent activity section showing a log of user actions.

プロジェクト管理系機能
 管理を行うための基本単位は「プロジェクト」です。この「プロジェクト」を対象として様々な設定が可能です。

- ①メンバー管理:各プロジェクトの参加メンバー(とそれぞれのアクセス権限)を設定できます。
- ②Wiki:プロジェクトの情報を共有するため、複数のメンバーが編集できるようにしたメモ帳のような機能です。
- ③引用:プロジェクトを論文などで引用するための書式です。複数のスタイルの中から希望のものを選択できます。
- ④コンポーネント:その研究プロジェクトの中に子プロジェクトを作り、プロジェクトを階層化させることができます。大きなプロジェクトの一部として行われる研究がある場合に役立ちます。

研究データ(ファイル)管理系機能
 研究データ(ファイル)を管理するための機能です。扱えるファイルサイズは1ファイル5ギガバイトまでとなっていますが、ファイルの形式は問いません。

- ⑤証跡管理:ファイルのアップロードやダウンロードなども含め、操作が行われた時刻(タイムスタンプ)を打刻したり、確認したりできます。ある時点の内容から改変がないかを証明できます。
- ⑥ファイル:GakuNin RDMでは1人あたり100ギガバイトの容量が用意されています。それ以外にBOX, GoogleドライブやOne Noteなど外部のストレージと連携し、容量を拡張することができます。また、ファイル名を変えずに内容を更新することで、ファイルの世代を管理することもできます。

個人向け機能
 設定などの個人向け機能です。

- ⑦プロフィールとして、複数の学歴や職歴、e-Rad番号や自身のウェブサイトのURL, ORCIDのIDなどを登録することができます。



GakuNin RDMは個人で利用し、研究データを管理することもできます。ご希望の方はメディアセンター電子情報部門(mc-drs@ml.toho-u.jp)までご連絡いただければ、利用マニュアルの提供、操作方法のご説明も可能です！

以下によくあるお問い合わせを掲載しました。

即時オープンアクセス義務化の対象となるのは、一部の公的資金の場合だけではないか？

内閣府からの要請によれば即時オープンアクセス義務化の対象となる公的資金は一部ですが、本学では社会的要請や「[東邦大学オープンアクセスポリシー](#)」に鑑み、すべての公的研究費を用いて作成された研究成果物の公開を実施する方針です。

「論文の根拠データ」とは何か？

本学としては論文の図表作成の元となるCSV形式やExcel形式のraw data, 加工前の画像ファイルなどを根拠データとして想定しています。



リポジトリへの登録申請は、いつまでに実施すれば良い？

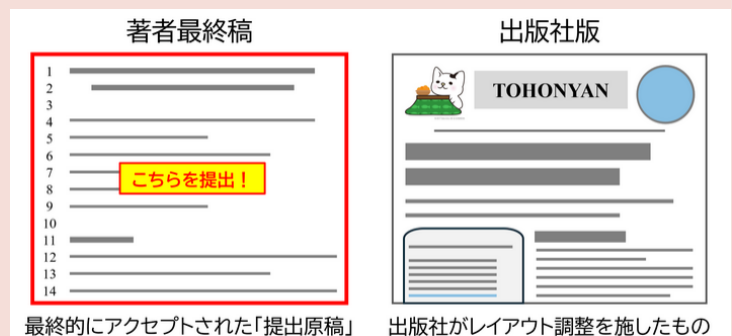
リポジトリに登録する論文または根拠データがある場合、論文が公開されてから3ヶ月以内にご申請ください。

臨床データ(個人に紐づいた臨床情報など)については、どのように対応するか。本件にGakuNin RDMはどのように関わるのか？

臨床データについては、リポジトリへの登録(公開)対象外です。ただし、研究データ管理を行う必要があるため、2026(令和8)年度以降に公開された論文の臨床データは、非公開扱いでGakuNin RDM上に登録する予定です。

「論文の著者最終稿」とは何か？

論文の査読が終了し、最終的にアクセプトされたFiguresやTablesを含むPDFで、出版社によるレイアウト調整が施される前のものです。出版社が校正したPDFやオンラインに掲載された出版社版のPDFではありません。



APCを支払いオープンアクセスにしたが、どうしたら良いか？

オープンアクセスにした論文については、本学リポジトリに登録する必要はありません。ただし、論文根拠データが未公開の場合には(患者に紐付いた情報でない場合)、根拠データと共に論文の著者最終稿もご提出ください(根拠データの確認用に使います)。

すでに外部のリポジトリで論文根拠データを公開しているが、この場合でも東邦大学学術リポジトリへの根拠データ登録が必要か？

根拠データを重複してリポジトリに登録する必要はありません。著者最終稿をリポジトリに登録する場合は、外部リポジトリで取得したDOIやURLを記載してください。

管理上の理由で非公開としている研究データもリポジトリへ登録するのか？

非公開の研究データはリポジトリに登録する必要がないため、提出不要です。

今までいただいたお問い合わせは、右のリンク先サイトの「[よくある質問](#)」に記載しています。判断に迷う場合など、お困りの際はrdmsupport@ml.toho-u.jpまでご連絡ください。

